

学習の自立を求めて

●『小学生の国語』監修代表 兵庫教育大学名誉教授 中洩正堯



なかす まさたか 兵庫教育大学名誉教授。国語教育探究の会・国語論究の会代表。専門は国語教育地域学。

育ちゆく小学生に向かって、たのもししい人格たれと呼びかけたのは司馬遼太郎である。たのもししい人格であるためには、自己を確立すること、自分に厳しく、相手にはやさしくすること、いたわりという感情を持つことなどと言っている。(「二十一世紀に生きる君たちへ」)——小学生が将来をかけて、自然と科学・技術、そして国家と世界という社会の調和を求めるたのもししい人格へと成長することの期待である。

学校教育の各教科、道徳、特別活動並びに総合的な学習の時間に展開される内容は、小学生に、自然と文化、そして社会を読み解くための基本となる知識・技能を提供し、自己確立に寄与しようとするものである。

その中であって、学習指導要領下の国語科は、大きく二つの役割をさらに積極的に担うことになった。一つは、言語に関する知識・技能や態度にかかわる国語科固有の任務である。いま一つは他教科等の言語活動を支え、同時に言語活動上の問題に学びつつ、それを解決する任務である。

こうした自覚のもとに、『小学生の国語』に

こめた第一の願いは、「読み解くに価する自然と文化、そして社会の内容を配列すること」である。——学習の興味・関心はここに始まる。

第二の願いは、「児童の学習の自立と教師の授業の創意工夫を推進すること」である。——

そのため、上下巻方式ではなく一冊にし、年間の見通しと振り返りを可能にする。単元は領域・事項の独立型とし、関連指導、総合指導は教室の創意工夫(学び合い)にゆだねる。さらに別冊『学びを広げる』を準備し、児童の学習の自立に供し、教師の授業の創意工夫並びに他教科等の言語活動に資する。

第三の願いは、「学習指導の精選、重点化(習得)と読書学習の推進(活用・探究)を図ること」である。——他教科等との連携をも導く読書学習の保障は学習の自立の保障でもある。そのため読書のきめ細かな案内を行う。

第四の願いは、「漢字学習の授業改革をすること」である。——書写の学習指導、語句・語彙の学習指導と一体化した漢字学習の授業を進めることによって、この面からも学習の自立を支援する。

第五の願いは、「すべての言語活動を表現活動で裏打ちすること」である。——表現活動は記録をベースとし、気づき、感想、意見を加える。その習慣化もまた学習の自立である。



新しい教科書観に立った

新しい2分冊構成

学習意欲を喚起する教科書

学習習慣を確立する教科書

見通しをもって学習に取り組める教科書

あらゆる段階で学習を振り返ることができる教科書

読書生活を豊かにする教科書

表現に生きる語彙・語句が身につく教科書

日常的に「書くこと」に取り組める教科書

すべての教材に「考えること」が位置づけられている教科書

『小学生の国語』
『小学生の国語 学びを広げる』

自ら学び、自ら考え、自ら問題解決する力をはぐくむ